

二次連携 病院連携室 & ケアマネ意見交換会

【目的】

相互理解の促進/具体的連携阻害要因の解決
/職種間のルールやコンセンサスの形成



【手法】

顔合わせ & 意見交換

【出席者】

平成27年2月24日(火)

【結果】

共通の課題は人手不足!

自己反省しつつ、相互理解を深める機会となった。新たな課題も抽出

釜石薬剤師会との一次連携

平成24年度	9/3、12/4、1/16
平成25年度	7/30、1/15
平成26年度	7/25、1/29
平成27年度	8/31、9/16



ケアマネの
顔が分からない。

どこに相談
すればよいの？

ケアカンファレンス
に呼ばれない



平成24年度抽出課題

病院薬剤師と
薬局薬剤師の連携

「訪問指示」の
処方箋が来ない

薬剤師の職能が
認知されていない

一次連携から二次連携へ ニーズのマッチングによる連携コーディネート 医科薬科編

医師と薬剤師、お互いに理解不足

①
《在宅医》
医師は万能ではない。
専門分野は専門
職種におまかせ
したい。

①
《薬剤師》
訪問の必要性は
わかるけど、
訪問のきっかけが
つかめない・・・等

②

《在宅医療連携拠点》

ニーズのマッチングによる
連携コーディネート
在宅医療同行訪問研修など
二次連携へ

一次連携で抽出された課題



二次連携 医科薬科在宅医療同行訪問研修

【一次連携で抽出された課題】

医科と薬科、病院薬剤師と薬局薬剤師お互いに理解不足
必要性は理解できるが在宅への一歩が踏み込めない。等



【研修目的】

医師と薬剤師、薬薬の相互理解推進／在宅医療の連携手法を探る

【研修実績】

	テーマ	薬剤師数	患者数
H25年度	残薬管理	4名	17名
H26年度	服薬指導	4名	35名
H27年度	フィジカル アセスメント	4名	34名



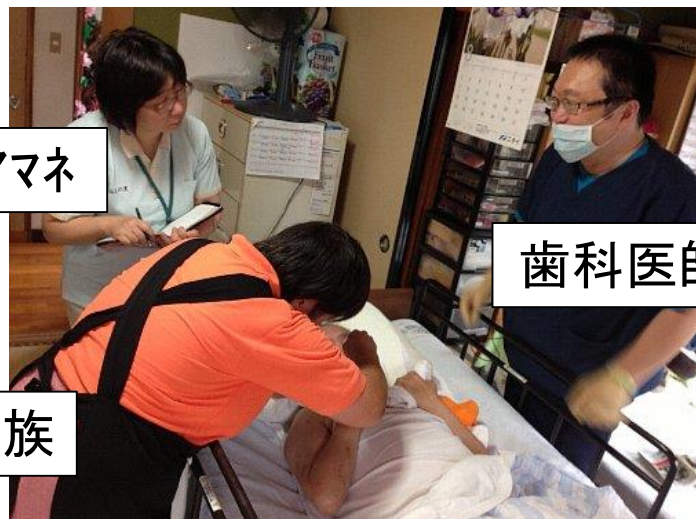
3年目を迎えた医科薬科在宅医療同行訪問研修

- ✓ 医師の診療（問診、時間、処方決定など）をイメージできるようになった。
- ✓ カルテを見ることができた。（検査値、病名など）
- ✓ 患者宅での患者の様子（外来との違い）が良く分かった。
- ✓ 医師の診療決定（患者の選択）を知ることが出来た。

薬剤師が在宅医療現場でやるべきことはたくさんあった。

《二次連携》

医科歯科在宅医療同行訪問研修 H25～



	歯科医師数	患者数
H25年度	3名	12名
H26年度	2名	5名
H27年度	4名	24名

一次連携打ち合わせ会 & 二次連携の成果物 在宅療養患者の歯科紹介システム

訪問歯科診療に関する医科歯科連携フロー

医師が患者宅を訪問する

- ◆ 患者が歯科治療を希望している
- ◆ 歯科治療を要する患者であると思われる(医師の判断)

「かかりつけ歯科医」か
「患者が希望する歯科医」
につなぐ

訪問開始

訪問不可

かかりつけ歯科医なし

「釜石歯科医師会チームかま
いし連携委員会」につなぐ

医療連携参加の意思が
ある会員につなぐ

かかりつけ歯科医の決定
→ 訪問開始



連携の土壌づく
りとタネまきの
結果

釜石歯科医師会
が主体的な取り
組みを開始

現在では、「多職種委
員会」として
医科だけでなく多職種
に対する連携の窓口
としても機能

釜石歯科医師会の主体的な取り組みによる成果物 歯科往診依頼書と歯科治療依頼スクリーニングシート

平成 年 月 日
歯科往診依頼書 (宛先:釜石市歯科医師会 FAX 0193-23-2223)

ご依頼元	事業所名 氏名 電話	FAX
------	------------------	-----

フリガナ	生年月日	年齢
患者様名	M・T・S	歳
住所(自宅・施設)	電話	

ご依頼内容

歯が痛い	歯が動く	噛めない	口が汚れている	傷がある
入れ歯が合わない	口が臭う	飲み込みが悪い	むせる	口が渇く
その他()				

以下、お分かりになる範囲でお答えください

全身疾患	1)	主治医
	2)	
	3)	医療機関名
認知症	有・無	
特記事項		

かかりつけの歯科医師がいる(先生) いない
 見て欲しい歯科医師がいる(先生) どの先生でもよい

承諾書 ご依頼に関する患者様の承諾(本人または家族の署名、押印)を願います。

印

歯科治療依頼スクリーニング

歯科治療の必要性のご判断にご利用ください

- 歯が痛い
- 冷たいものや熱いものがしみる
- 歯に穴があいている、黒くなっている
- 被せものや詰めものがとれている
- 歯ぐきから出血したり歯ぐきが腫れている
- 歯がぐらぐら動く
- 口臭がひどい
- お口の中に白い斑点がある。赤くただれている
- 入れ歯がない、使用していない
- 入れ歯を入ると痛い
- 入れ歯が落ちたり、はずれやすい
- 入れ歯が欠けたり、こわれている
- 入れ歯のパネのかかる歯が抜けている、欠けている
- 入れ歯のあたる歯ぐきや舌や頬の粘膜に傷ができています



※チームかまいしのHPから
ダウンロードできます。

<http://teamkamaishi.ec-net.jp/>

在宅医療同行訪問研修に係る各職種の役割

①在宅療養支援診療所等

症例・ルートを選定、患家との歯科医師や薬剤師の受け入れ調整

②歯科医師会・薬剤師会

参加歯科医師・参加薬剤師の取りまとめ・調整

③在宅医療連携拠点

協力可能な医療機関(医師)の選定・調整

①②の職種間の連携コーディネート

医師会ほか、地域全体のコンセンサス

《二次連携》 ケアマネ薬科合同研修会 ～最も波及効果が大きく表れた二次連携～

【一次連携で抽出された課題】

ケアマネジャーの顔を知らない。サービス担当者会議に呼ばれない。
薬剤師の職能が理解されていない。等

【目的】自分の職能を再確認する。お互いを理解する。
地域包括ケアにおける2職種の共通の目的を確認する。

【手法】顔合わせ＆グループワーク

【結果】お互いに理解不足であることを再認識。声には出さなかったがケアマネも薬剤師との連携を望んでいた。どちらの職種も地域包括ケアの重要な担い手であることを認識

【成果】ケアマネと薬剤師の連携始動!!

これを契機に薬剤師がサービス担当者会議に呼ばれるように…



二次連携 ケアマネ薬科合同研修会《構成》

◆研修内容は4段構成◆

【GW①自分の職種を再確認】

職種毎のグループに編成。自職種の役割りと可能性について話し合う時間
ポイント! 特に多職種との連携に慣れていない薬剤師にとって必要な時間

【GW②お互いの職種を理解しよう】

ケアマネと薬科が混在するグループに編成。
GW①で話し合った内容等、相互にアピールする。



【講演:地域包括ケア時代の多職種連携のありかた】

目的:包括ケアの支え手として、共通の目的が「患者の生活を支える」ことを確認する

【GW③多職種連携・この地域のために】

GW②と同じグループが話し合っ、発表。

波及効果①

2次連携から発展した連携。 薬科・介護連携グループ「かだれ」の誕生!!

やっていることは飲み会ですが、ばっちり顔の見える関係が構築
まちの活性化に寄与しているという自負あり。
釜石地域の人材不足解消のきっかけになればいいなあ・・・ by 主宰者



波及効果②

ケアカフェの開催

「ケアカフェ」とは、
カフェを訪れるように気軽に参加できる、
医療者、介護者、福祉者のあつまりです。
多職種顔の見える関係づくりや日頃の
ケアの相談場所として提案されています。

主宰者は「かだれ」と同じ
介護職4名と薬剤師2名

アルコールを飲めない人でも参
加できるものはないかと考えて
行きついたのがケアカフェ





●●●●さんは●●●●さん、他3人と

一緒に

1時間前・👤

栄養士との飲み☆

2月22日 🎵

月曜日(🌸><)ノ

ケアカフェかまいしの運営メンバー5人と！
市内の栄養士3名で！... 続きを読む



いいね！57件 コメント3件

更に効果は波及 している・・・

以下、某薬剤師のFacebookより
要約

ケアカフェで出てたアイデアの1つ「介
護福祉士・栄養士・薬剤師の合同
研修」を検討中

研修により、顔の見える関係から
腕と腹の見える関係構築に期待！

宮城県の在宅で活躍している栄養
士の活躍ぶりからインスパイア

釜石をより良い地域にするために
徐々に取り組みを進めたい。



地域住民への普及啓発

◆在宅医療普及啓発用冊子の発行・活用

◆市民公開講座等の実施

平成25年度「がんになっても安心して暮らせるまちづくり」

平成26年度「食べることを生きること

～健康を支える多職種連携～」

平成27年度「地域包括ケア時代の自助

～超高齢社会、健康と美は自ら努力するものに宿る～」

◆生涯学習まちづくり出前講座の実施

地区民生児童委員協議会、町内会等



釜石市健康づくりの集い(午後の部)
平成26年度 市民公開講座

「食べることを生きること」
健康を支える多職種連携

対象
地域包括ケアに関わる多職種、一般

参加無料
事前申込
不要

内容

- 13:20…開会 主催者あいさつ
- 13:30…「釜石市の在宅医療と多職種連携」
講師 野田氏
(釜石市健康づくり推進課/釜石市在宅医療推進センター/釜石市健康づくり推進課)
- 13:40…食と生活
講師 水下山田氏
(釜石市健康づくり推進課/釜石市健康づくり推進課)
- 14:00…「食べることを生きること ～命を支える口腔ケア～」
講師 五郎 康孝氏
(釜石市健康づくり推進課/釜石市健康づくり推進課)
- 14:10…食と生活
講師 山下 貴雄氏
(釜石市健康づくり推進課/釜石市健康づくり推進課)
- 15:30…閉会

日時
平成26年11月15日(土)
12:50開場 13:20開演

会場
イオンタウン釜石2F
イオンタウンホール

主催
釜石市健康づくり推進課/釜石市在宅医療推進センター(共催)

共催
釜石医師会/釜石市医師会/釜石市健康づくり推進課

問い合わせ先 在宅医療連絡員チームがまいい 019-655-4535

釜石市健康づくり推進課/釜石市在宅医療推進センター/釜石市健康づくり推進課
〒985-0801 釜石市健康づくり推進課/釜石市在宅医療推進センター/釜石市健康づくり推進課



地域連携だより「Face to face」の発行

- 相互理解を目的とした専門職向け情報誌版「顔の見える会議」
- 紙ベースで関係多職種に送付。大きい施設には複数部数配付←ささやかなこだわり
- 既刊号はチームかまいしHPに掲載

《主な掲載内容》

チームかまいし主催・共催事業、新規オープン施設等・職員紹介、職能団体主催研修の周知、連携に関する地域の活動紹介 等



拠点が資源を把握するためのツールとしても有効 !!



チームかまいしの取組み 《まとめ》

- 釜石市では、医療知識の質的担保のため、釜石医師会との連携によって在宅医療・介護連携に関する事業を推進

多職種が一同に会する機会が必要。しかし、顔と名前が一致しただけでは、現場レベルの連携は進まない。

- **そこで連携拠点が・・・**
 - 一次から三次の階層ごとに課題を抽出・分類、フィードバックすることで団体自らが主体的に解決策を検討。連携拠点は実施を支援!
 - また、連携拠点は課題に応じた連携の「場」と「手法」を選定し、ニーズをマッチングする形で現場で必要とされる連携を構築!
- 連携拠点を設置して4年、連携の土壌づくりとタネまきを行ってきた結果、釜石保健医療圏では連携当事者(地域包括ケアの担い手)の主体的な取組みが推進されている。

ご清聴ありがとうございました。